

*…廊下をとりこむ

部屋と部屋をつなぐ廊下は「ないと困る」と思っている方が多いかもしれない。しかし、本当にそうだろうか。

ドアと壁に囲まれた真っ暗な通路が家の中心を占めているのは、いかにももったいない。スペースとしてだけでなく、窓からの光や風が壁で遮られ、居室の暖房も廊下をはさんだトイレや洗面には届かない。

マンションでは開口部、スペースも限られていることもあり、廊下を居室にとりこむリフォームが以前から多く行われてきた。寝室やトイレ、洗面にはリビングからアクセスする。トイ

Let's リフォーム
西田恭子

玄関から真っ暗な細い廊下が続くリフォーム前



リフォーム後 廊下を取り込み、和室をとりはらってリビングに改装。玄関も見違えるほど明るくなった



構造上必要な柱を空間のポイントとしてデザインした例

せたり、残った壁にあえて違う色の壁紙を貼ってアクセントウォールにしたりと、そこが我々の腕の見せ所でもある。

写真③のお宅では、廊下とリビング

の出入りを見られたくないなら、視線の届きにくい配置にするといった工夫もできる。出入り口を引き戸にすればドアがぶつかる心配もない。むしろ、温度差のない空間、ゆったりとしたスペース、開口部からの光や風の流れといったメリツトの方がはるかに大きい。バリアフリーのニーズが

高まるにつれ、戸建て住宅でも廊下を部屋にとりこみたいというご要望が増えてきた。

写真①・②は、玄関から一番奥のキッチンまでほとんどワンルームにしてしまった施工例である。玄関から暗い廊下が続いていた家が、見違えるほど明るくな

ただ、戸建てで廊下を取り込む場合、マンションと違って構造上必要な柱や壁が残ってしまいがちだ。柱を強引に抜くのは論外だが、さもリフォームしまたというように唐突に柱があるのもいただけない。柱を太くして存在感を際立た

グ、キッチンを仕切っていた壁を取り払ってワンルームにした際、残った柱に細い材を数本連続させ、オブジェのように空間のポイントとしている。廊下をとりこむことで得られる広がり

と明るさ、さらに均一な温度を確保しやすい床暖房を組み合わせれば、快適かつおしゃれなバリアフリー空間が誕生する。

(三井のリフォーム 住生活研究所所長、一級建築士)

温度差なく、広がりとも明るさが…